

04 プレイバント「Rethink Designers Meetup ～価値共創から紡ぐサーキュラーエコノミーの輪～」

サーキュラーエコノミー（CE）とは、廃棄を出さない仕組みづくりであり、その本質は、新たな価値として資源を循環させることである。

新たな価値循環の実現には、個社のリソースだけでは経済合理性を担保できず、資源循環における「動静脈連携」を基軸とした価値共創が必須である。

共創を継続していくうえで、「ものづくり」と「ものがたり」による価値を統合的にデザインするプレイヤー「Rethink Designer」が鍵だと考え、互いの想いに触れ合い今後のアクションの接点づくりとすべく、本イベントを企画し、開催した。

当日のプログラムは3部構成で開催。SESSION 1では、主催者である近畿経済産業局からの挨拶の後、経済産業省 産業技術環境局 資源循環経済課の吉川課長補佐より、「サーキュラーエコノミーに関する産官学パートナーシップに込めた想い」について講演。続くSESSION 2では、それぞれのRethink Designerから8つの事例について紹介いただいた。SESSION 3では、事務局からリサーチのインサイト紹介と製品展示・参加者同士の交流会を開催した。

当日は、18の企業・行政、計37名の方に参加いただいたキックオフの場となった。



(開催概要)



(主催者あいさつ)



(参加者同士の交流会の様子)



(Rethink Designerによる事例紹介の様子)



Rethink Designers Meetup 参加者プロフィール

登壇者



吉川 泰弘
YOSHIKAWA Yasuhiro



経済産業省 産業技術環境局
資源循環経済課 課長補佐(総括)

産官学のパートナーシップ「サーキュラーパートナーズ」

自分事として自分の生きる社会のデザインを考える。みんなの想いを繋ぐ。
Leave No One Behind.

東垣 芳昌
TOHGAKI Yoshiaki



アミタ株式会社
地域デザイングループ
地域デザインチーム

MEGURU System開発

人の思いと資源が循環する仕組みをつくる！

坂東 優樹
BANDO Masaki



大阪市高速電気軌道(株)
(Osaka Metro)
生活支援サービス事業推進部 課長

Osaka Metroクリエイティブ
「廃車再生プロジェクト」

ものづくりで、大阪をもっとワクワクする街に！

加戸 卓
KADO Takashi



大日本印刷 Lifeデザイン事業部
環境ビジネス推進部 部長

Recycling Meets
Design@Project

「デザインの力」で再生プラスチックを活かしたい

竹原 朗
TAKEHARA Akira



大日本印刷 Lifeデザイン事業部
環境ビジネス推進部

Recycling Meets
Design@Project

「デザインの力」で再生プラスチックを活かしたい

黒木 洋平
KUROKI Yohei



株式会社バンテック 執行役員
サーキュラーエコノミー推進部 部長

「で、おわらせないPROJECT」、
Filmateなど

「環プラ」を共創(Co-Creation)しましょう。

鷺尾 貴子
WASHIO Takako



大阪市高速電気軌道(株)
(Osaka Metro)
生活支援サービス事業推進部 係長

Osaka Metroクリエイティブ
「廃車再生プロジェクト」

廃車部品で大阪から元気を創りつけます！

南原 徹也
NAMBARA Tetsuya



(株)甲子化学工業 大阪・関西万博
運営参加(ヘルメット)サプライヤー
企画開発部

HOTAMET / SHELLTEC

プラスチックを悪と決めつけるのではなく、共存できる社会を実現したい。

橋本 恭輔
HASHIMOTO Kyosuke



(株)TBWA HAKUHODO
Disruption Lab PR Planner

HOTAMET / SHELLTEC

日本に埋もれてしまっている可能性のある技術を、PRのチカラで世界に広めていきたい。

大野 賢
ONO Satoshi



株式会社バンテック
マーケティング部 部長

「で、おわらせないPROJECT」、
Filmateなど

近畿から世界に誇れる「環プラ」を

住田 康年
SUMIDA Yasutoshi



(株)電通
サステナビリティコンサルティング室
室長

「で、おわらせないPROJECT」

サーキュラー・エコノミーに「デザイン」を！

堀田 峰布子
HOTTA Mihoko



(株)電通
サステナビリティコンサルティング室
部長

「で、おわらせないPROJECT」

サーキュラー・エコノミーに「マーケティング」を！

細目 圭佑
HOSONOME Keisuke



渋谷ブレンドグループ 代表
日本GXグループ、CEKAI、リクルート、
ReBlend Plastics 宮崎大学准教授

日本カーボンクレジット取引所、GX総合研究所、再生複合プラスチック、ゼロカーボンパッシブハウス

CEに必要な事業は渋谷ブレンドのグループ会社としてすぐにスピンアウト創業者の役割をお声がけください！

山下 史哲
YAMASHITA Fumiaki



株式会社新東通信 CIRCULAR
DESIGN STUDIO. スタジオ長

サーキュラーエコノミーによる街づくり

同志×多様性×場で、
皆さんとサーキュラシティを実現したい

大内 良洋
OHUCHI Yoshihiro



モリトアパレル株式会社
マテリアルデザイン事業部 部長

Rideeco
(モリトグループの環境に配慮したプロジェクト)

廃漁網を活用した商品の企画・開発・
循環に取り組んでいます

藤原 まゆみ
FUJIWARA Mayumi



モリト株式会社 事業戦略本部

Rideeco
(モリトグループの環境に配慮したプロジェクト)

繰り返し循環させることができるものづくりをしていきたいと思っています。

Rethink Designers Meetup 参加者プロフィール

ヒアリング関係者・KIZASHI企業等



山内 剛

YAMAUCHI Tsuyoshi



亀岡市環境先進都市推進部長

ブラごみ0・ゼロエミッション・カーボンニュートラル トリプル「0」プロジェクト

環境先進都市・亀岡市のブランディング！

曽我部 育

SOGABE Yasushi

亀岡市 環境先進都市推進部
資源循環推進課 主幹

ごみ減量と資源循環の推進

資源循環と地域経済活性化の両立を目指す！！

名倉 真也

NAGURA Shinya

亀岡市 環境先進都市推進部
環境政策課副課長 兼 環境保全係長

ブラごみゼロチャレンジ

世界に誇れる環境先進都市をめざす！

吉川 利幸

YOSHIKAWA
Toshiyuki(株)吉川国工業所 代表取締役
(KIZASHI企業)

環境に優しい、より持続可能な材料と技術の開発に取組み、高品質で長く使える製品を皆様にご紹介、循環するプラスチックの必要性を訴えていきたい。

嶋田 勤

SHIMADA Tsutomu

(株)吉川国工業所 新規事業開発課
課長(KIZASHI企業)

セルロース複合樹脂で「脱炭素社会」を目指し、温室効果ガス削減に向け、日用家庭用品業界の先駆けとなり、当社の企業価値向上を図りたい。

坂倉 孝雄

SAKAKURA Takao

大手前大学 (春からは)現代社会学部
准教授兵庫県北摂エリアを拠点に食品ロス循環プロジェクトwithH2O社稼働中。
学生とのコラボ案件募集中！

梅田 宏行

UMETA Hiroyuki



株式会社カナエ 取締役 開発本部長

廃PTPのマテリアルリサイクル

包装材料の販売企業として、お客様の工場から排出される廃プラをマテリアルリサイクルして廃棄物削減に取り組んでいます。

久保 昇平

KUBO Shohei

関西巻取箔工業株式会社 取締役COO
(KANMAKI)

顔料箔 - 脱炭素時代の印刷塗装ソリューション-

西陣織の金糸をルーツに持つ「顔料箔」を“一周回って新しい”ソリューションとして広めたい！

内田 栄時

UCHIDA Eiji

有限会社ウチダプラスチック
代表取締役
(KIZASHI企業)

皆さんの取り組みなど勉強できればと考えております

※オンライン参加

森 雅人

MORI Masato



(株)サンテレビジョン 事業部

自社の海洋ごみ問題の取組みなど、情報交換したい。

安江 竜大

YASUE Tatsuhiko

近畿経済産業局 環境・資源循環経済課 調査係長/ 地域経済産業調査員
(二刀流)

Rethink Designers Project

CEを自分事に、あこがれるのをやめましょう

久保 直嗣

KUBO Tadashi

AC Biode(株) 代表取締役社長
(KIZASHI企業)

空気中からCO2を吸着、固化し、ガラスやセメント等にリサイクルする技術と設備を販売しています(レプセルと協業)

※オンライン参加

芝原 茂樹

SHIBAHARA Shigeki

(株)近江物産 代表取締役会長
(KIZASHI企業)

循環資源への転換 時代は“サステナブル・プラスチック”へ

【Meetup参加者の声(アンケート結果から抜粋)】

Meetup参加者のアンケート回答結果から、学びになった内容として、「他社の取組・苦労」や「CEの各事例における『生の声』が聞けたこと」が挙げられた。

また、「他社の取組でも同様の悩みに直面している。他社と連携することで、解決できることもあるのではないか」といった気付きも挙げられていた。

今後の展開に向けて、「今回のような事例の紹介という枠を超えて、日本ならではの『CEビジネス』の成功事例などのシェアがされていくと、更に興味深い。」

「今後もネットワークの輪が広がっていくことを期待する」といった期待も寄せられている。